

自立活動ハンドブック



沖縄県総合教育センター 特別支援教育班
令和4年4月

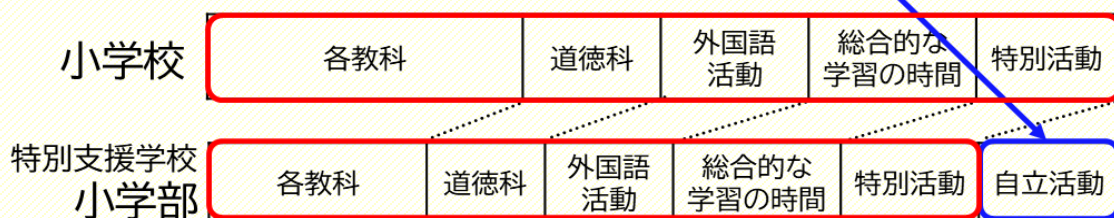
目次

• 自立活動の教育課程上の位置づけ	1
• 自立活動の指導	1
• 教科と自立活動の違い	2
• 自立活動の学習の取り扱い	2
• 合理的配慮と自立活動とのかかわり	3
• 自立活動の目標	4
• 自立活動の指導	5
• 自立活動の指導内容（6区分27項目）	6
• 自立活動の指導の考え方	7
• 指導計画作成の流れ	8
• 個別の指導計画作成の留意点（実態把握）	9
• 実態把握①（情報の収集）	10
• 実態把握①（長所やよさ、課題など）	11
• 実態把握②－1（自立活動の6区分で整理）	12
• 実態把握②－2（学習上・生活上の困難や学習状況等で整理）	13
• 実態把握②－3（3年後・卒業後の姿）	14
• 指導すべき課題の整理（課題の抽出）	15
• 指導すべき課題の整理（課題同士の関連）	16
• 指導目標の設定	17
• 指導目標間の関連付け	17
• 具体的な指導内容	18
• 主体的・対話的で深い学び	19
• 自立活動の指導形態（留意点）	19
• 自立活動の評価	20
• 記入例（流れ図、個別の指導計画と評価）	21
• 実践例（教材・教具の紹介）	31
• 指導計画作成の流れ図（様式例）	33

自立活動の教育課程上の位置づけ

「特別支援学校は、視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由又は病弱者（身体虚弱者を含む。以下同じ。）に対して、幼稚園、小学校、中学校又は高等学校に準ずる教育を施すとともに、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授けることを目的とする」
(学校教育法第72条)

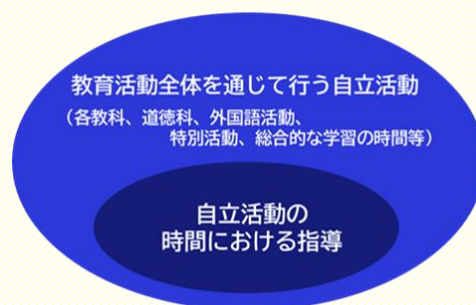
小学校と特別支援学校小学部の教育課程の構成イメージ図



自立活動の指導

自立活動の指導は、授業時間を特設して行う「自立活動の時間における指導」を中心として、学校の教育活動全体を通じて行うこととされています。

自立活動の時間における指導と教育活動全体を通じて行う自立活動は、関連を図りながら指導することも大切な視点になります。



教科と自立活動の違い

教科は、指導内容(各教科の見方・考え方)を、体系的・系統的に整理し、児童・生徒の発達に即して配したもので、目標・内容は共通です。

一方、自立活動は、指導内容に順序性はなく、個々の課題に即した指導目標・内容を設定し、課題を改善克服するための指導を行うため、個別指導が基本となります。

自立活動の学習の取り扱い

人間としての基本的な行動を遂行するために必要な要素	食事をとる、視覚や聴覚の活用、歩くことなど、生活を営むために基本となる行動に関する要素
障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な要素	「各教科等」の学習をするための基盤となる能力等が障害によってうまく機能していない点についてアプローチし、下支えする

「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編 P.21」参照

障害に伴い、生活や学習に支障がでるため、障害のない児童・生徒と同じような指導方法だけでは学習や生活が困難になります。そこで、自立活動の学習では、この部分にアプローチし、改善する方法を探したり、身につけたりしていきます。

合理的配慮と自立活動とのかかわり

学習上・生活上の困難に対する合理的配慮と自立活動の指導

- ①姿勢保持が苦手で、着席の姿勢が崩れてしまう
- ②集団参加が苦手で、教室へ入れない
- ③文字を書くことが苦手で避けてしまう

配慮の視点

- ① 適切な学習機やいすの用意とフィッティング
- ② 視聴覚情報機器を活用した遠隔授業、学びの場を合わせる
- ③ 書く量の調整、ICT機器を活用した文字入力（文章表現）

指導の視点

- ① 動作法等で姿勢保持やポジショニングについての学習
- ② 細切れの時間の参加を促すことや学習内容の調整
- ③ 機器の操作方法を学ぶ

自立活動の指導と教科指導の関連を図る

障害による学習上・生活上の困難の改善の視点として、合理的配慮の提供があります。障害があってもみんなと同じように生活し学習する権利を守るために、合理的配慮の提供については、法律にも明記されていますが、自立活動の指導と関連させながら合理的配慮の内容も検討するという視点が大切になります。

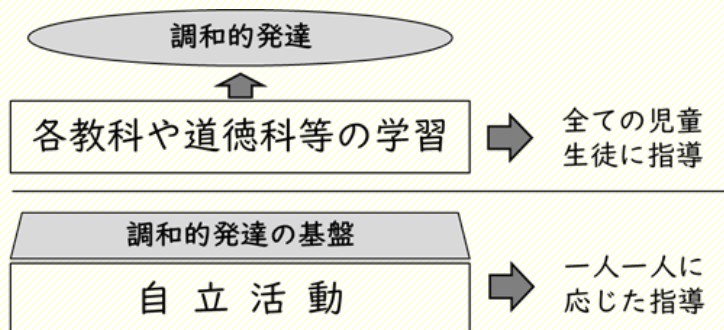
自立活動の目標

個々の児童又は生徒が**自立を目指し**、障害による**学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服**するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって**心身の調和的発達**の基盤を培う。

(学習指導要領第7章第1)

1. 個々の児童生徒の自立を目指した学習活動とは
 - ・ 児童生徒主体の学習であること
 - ・ 障害による困難さを改善・克服するための知識・技能の獲得と、学習や生活に生かそうとする態度や習慣を形成すること
 - ・ (障害による) 困難さを自分で認識し、対応できる力を身に着けること⇒生涯にわたって必要な資質・能力
2. 障害による学習上又は生活上の困難が指導の対象
 - ・ 例えば…視覚障害なら視覚からの情報入手が制限されること肢体不自由なら手足の不自由等から思うように移動できない…など
3. 調和的発達の基盤を形成すること

自立活動で発達の土台をしっかりと作り、各教科の指導を積み上げていく。
調和的発達の基盤は、学習の基盤であると同時に生活の基盤でもある。



自立活動の指導

自立活動は個に応じたオーダーメイドの指導
⇒担当教員が目標内容を設定

- (1) 実態把握
 - (2) 指導すべき課題の整理
 - (3) 指導目標の設定
 - (4) 指導内容、指導の場の設定
- なぜ？
- どの
ように？

指導の根拠を踏まえた、継続した指導！

学習指導要領解説自立活動編 参照

自立活動の指導は、教科等の学習とは違って、個々の実態に応じたオーダーメイドの指導で、担当する先生が、子どもの実態から課題を捉え、指導目標や指導内容等を設定します。また、指導計画の作成については、子どもの実態をどのように捉えたのか、なぜその指導目標や指導内容を設定したのかといった、設定に至る考え方を担当者間で共有し、指導の根拠を踏まえた、継続した指導につなげる必要があります。そのため、自立活動の指導計画については、指導目標や内容、評価だけでなく、指導の根拠を含めた引継ぎが重要になるため、学習指導要領にも指導計画作成の流れが示されています。

自立活動の指導内容（6区分27項目）

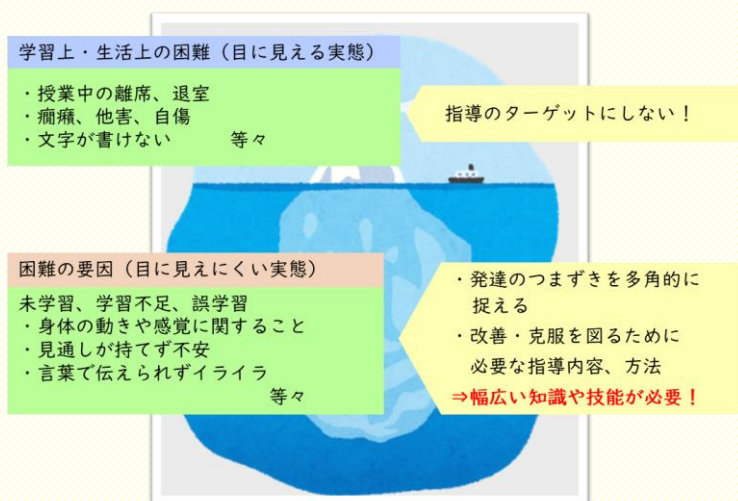
区分	項目
健康の保持	(1)生活リズムや生活習慣の形成に関する事 (2)病気の状態の理解と生活管理に関する事 (3)身体各部の状態の理解と養護に関する事 (4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事 (5)健康状態の維持・改善に関する事
心理的な安定	(1)情緒の安定に関する事 (2)状況の理解と変化への対応に関する事 (3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事
人間関係の形成	(1)他者とのかかわりの基礎に関する事 (2)他者の意図や感情の理解に関する事 (3)自己の理解と行動の調整に関する事 (4)集団への参加の基礎に関する事
環境の把握	(1)保有する感覚の活用に関する事 (2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事 (3)感覚の補助及び代行手段の活用に関する事 (4)感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握と状況に応じた行動に関する事 (5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事
身体の動き	(1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事 (2)姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事 (3)日常生活に必要な基本動作に関する事 (4)身体の移動能力に関する事 (5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事
コミュニケーション	(1)コミュニケーションの基礎的能力に関する事 (2)言語の受容と表出に関する事 (3)言語の形成と活用に関する事 (4)コミュニケーション手段の選択と活用に関する事 (5)状況に応じたコミュニケーションに関する事

⇒個々の児童生徒に必要とする指導内容だけを取り扱う。
 選定した内容は、関連付けて指導する
 （内容ごとに指導するのではない）

自立活動の指導の考え方

自立活動では、目に見える実態を指導のターゲットにするのではなく、困難の要因を指導のターゲットとし、具体的な指導内容や方法を適切に設定していきます。

発達のみずきを多角的に捉え、その改善・克服を図るために必要な指導内容や方法を検討するためには、幅広い知識や技能が必要となります。



【個別の指導計画作成の意義】

一人一人の困難さに関する情報を集めて分析し、個別に指導計画作成する必要がある。

「知的障害特別支援学校の自立活動の指導」参照

例えば…「他者に意思を伝えられない AさんとBさん」
⇒ AさんとBさんの指導目標・内容は同じでしょうか？

※困難の背景（考えられる原因）は…

「言葉の発達の遅れ？」
「対人関係の問題？」

背景や要因が異なれば、指導内容も異なります。

指導計画作成の流れ

実態把握

観察法、引き継ぎ資料参照 標準化された発達検査

中心課題の絞り込み

6区分27項目の選定

具体的な指導内容の設定

自立活動の時間 教科等合わせた指導 教科・領域別の指導

指導の実践

評価・次年度への引継ぎ

継続した指導に必要な情報（指導改善）

指導計画作成のおおまかな流れとして、実態把握、中心課題の絞り込み、具体的な指導内容の設定、評価があります。

実態把握の方法としては、日々の行動観察、引き継ぎ資料に加え、標準化された発達検査やチェックリストなどの活用があります。また、本人自身の困り感や何ができるようにしたいのか、何を手伝ってほしいのかということ把握することも大切です。

中心課題の絞り込みでは、6区分27項目の内容の中から課題に関連する内容を選定し、課題を整理します。

整理した課題を踏まえ、具体的な指導内容の設定をします。この時、どのような場面で、誰が、どのような指導をしていくのかという指導の場の設定も合わせて計画し、児童生徒の指導に関わる先生方で共有し、連携した指導につなげます。

評価については、指導の根拠を示した指導計画と指導を通して見られた本人の様子に加え、指導の際の配慮等も、継続した指導に必要な情報となります。

個別の指導計画作成の留意点（実態把握）

学部・学年		興味関心、長所やよさは、 個々の指導内容を設定する際に 活用できる情報
障害の種類・程度や状態等		
事例の概要		

実態把握	① 障害の状態、発達や経験の程度、 <u>興味・関心</u> 、学習や生活の中で見られる <u>長所やよさ</u> 、課題等について情報収集			
	②-1 収集した情報（①）を自立活動の区分に			
	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環
②-2 収集した情報（①）を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階				
※各項目の末尾に（ ）を付けて②-1における15まで同じ。)				
②-3 収集した情報（①）を〇〇年後の姿の観点から整理する段階				
※各項目の末尾に（ ）を付けて②-1における15まで同じ。)				

- ・ 課題にのみ目を向けるのではなく、興味関心、長所やよさも把握すること（①）※巻末の様式参照
- ・ 障害名に捉われず、自立活動の区分に即して実態を整理すること（②-1）
- ・ 学習上、生活上の困難やこれまでの学習状況の視点で整理すること（②-2）
- ・ 長期的な視点で整理すること（②-3）

※このように、様々な視点から実態を整理することで、よりの確な実態把握につながります。

実態把握①（情報の収集）

情報収集の視点

【学習面】

- ・ 聞く ・ 話す ・ 読む ・ 書く ・ 計算する
- ・ 推論する 等

【運動面】

- ・ 粗大運動 ・ 微細運動 等



【社会性】

- ・ コミュニケーション ・ 人との関わり ・ 自制
- ・ 意思決定 ・ 自己理解 等

【その他】

- ・ 興味関心 ・ 身辺自立 ・ 注意 ・ 多動性
- ・ 衝動性 ・ 考え方の傾向 ・ 感覚の偏り 等

子どもの実態に関する情報収集の際には、引継ぎ資料や保護者など子どもと関わりのある教員等から情報収集したり、行動観察や標準化された検査等を活用し、実態把握を行います。

その際、どのような情報を収集するかという視点がないと、漠然とした実態把握になってしまい、必要な情報が不足してしまうことがあります。

的確な実態把握のためにも、視点を持った情報収集が必要になります。ここであげた視点や各学校で作成している実態把握のためのシートを活用することで、必要な情報を収集しましょう。

実態把握①（長所やよさ、課題など）

・着替え、歯磨き、手洗いは、おおむね自分でできる

・音楽が好きで曲に合わせて体を動かして楽しむ

・きらきら光る物に興味を示しじっと見ている

・アンパンマンのキャラクターが好き（持ち物等）

・不安な時に、指をくわえ、気分を落ち着かせようとする

・走る、跳ぶ、投げるなどの動きはできるが、ぎこちない

・気になる物に目がいき、話をしている相手と目が合わない

・自分の思いを言葉で伝えることが難しい

・着席して机上学習に取り組むことが難しい

・形や色の弁別が、まだできていない

・絵カードやタイムタイマーなどの提示はまだ有効でない

・椅子に座るときに姿勢がくずれる

実態把握では、課題だけでなく長所やよさについても把握します。付箋の色で長所やよさ・課題を色分けして示すと整理しやすくなります。（上図は、よさをピンク、課題を黄色の付箋で示しました）

本人自身ができるようになりたいことや進路などの希望を聞くことも、大切です。

実態で得られた課題をもとに、中心となる課題を検討し、目標設定していきませんが、指導内容や指導方法を検討する際には、得意なことや好きなこと、本人の希望などを取り入れることで、主体的な学習につなげることができます。

実態把握②ー 1 (自立活動の6区分で整理)

健	心	人	環	身	コ
<ul style="list-style-type: none"> ・興奮しているときは、寝つきが悪い 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽が好きで曲に合わせて体を動かして楽しむ ・不安な時に、指をくわえ、気分を落ち着かせようとする ・着席して机上学習に取り組むことが難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・気になる物に目がいき、話をしている相手と目が合わない 	<ul style="list-style-type: none"> ・きらきら光る物 ・形や色の弁別が、まだできていない ・絵カードやタイムタイマーなどの提示はまだ有効でない 	<ul style="list-style-type: none"> ・着替え、歯磨き、手洗い ・走る、跳ぶ、投げるなどの動きはできるが、ぎこちない 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思

児童生徒の実態を障害名のみで頼って特定の指導内容に偏ることがないように、対象となる児童生徒の全体像をとらえて整理することが目的です。

肢体不自由があるから「身体の動き」に関する指導、自閉症だから「コミュニケーション」に関する指導というように、障害名に頼った実態把握は、特定の指導内容に偏ってしまうことが懸念されます。偏った指導にならないためには、全体像を把握する必要があります。

そのためには、児童生徒の実態を障害名で判断せず、自立活動の6区分の視点で、実態を整理します。

実態把握②－２ (学習上・生活上の困難や学習状況等で整理)

<ul style="list-style-type: none"> ・着席して机上学習に取り組むことが難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・椅子に座るときに姿勢がくずれる 	<ul style="list-style-type: none"> ・走る、跳ぶ、投げるなどの動きはできるが、ぎこちない 	<ul style="list-style-type: none"> ・形や色の弁別が、まだできていない
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを言葉で伝えることが難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・気になる物に目がいき、話をしている相手と目が合わない 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵カードやタイムタイマーなどの提示はまだ有効でない 	

- ・着席して机上学習に取り組むことが難しく、途中で離席するなど落ち着きがなくなる
- ・体の使い方のぎこちなさや力の加減がうまくいかず、コップの水をこぼす、ハサミやのり等をうまく使えない等の困難さが見られる
- ・自分の思いを言葉で伝えることが難しく、泣き出したり、頭をたたいたりする等の行動につながっている
- ・絵カードを活用して意思交換の手段にしたいが、絵カードの意味やカードで伝えるという行為そのものの理解ができていない

上の図にある、黄色の付箋の内容を具体的に示したものが、緑の四角内の文章です。

自立活動の指導は、学習上または生活上の困難を克服するための指導であることから、学習上・生活上の困難という視点で実態を整理します。

また、これまでの学習状況（学びの履歴）についても把握しておくことで、今後も継続して指導すべき課題なのか、ステップアップしていく段階なのかを検討する視点になります。

実態把握②－ 3（3年後・卒業後の姿）

・着席して机上学習に取り組むことが難しい

・椅子に座るときに姿勢がくずれる

・走る、跳ぶ、投げるなどの動きはできるが、ぎこちない

・形や色の弁別が、まだできていない

・自分の思いを言葉で伝えることが難しい

・気になる物に目がいき、話をしている相手と目が合わない

・絵カードやタイムタイマーなどの提示はまだ有効でない

現在の児童生徒の実態から、3年後や卒業後にめざす姿を思い描きます。児童生徒の夢や希望、学校で掲げているめざす児童生徒像を踏まえること！

- ・安定した気持ちで学校生活を送ってほしい
- ・泣いたり、自傷したりせず、自分の気持ちを先生や友達に伝えることができるようになってほしい
- ・日常生活動作が向上し、様々な活動をスムーズに行えるようになってほしい
- ・45分間、離席せず、机上学習に取り組むようになってほしい

上の図にある黄色の付箋の実態を踏まえ、3年後や卒業後に目指す姿を記したのが、緑の四角内の文章です。

現在の子どもの実態を踏まえ、少し先の3年後・卒業後にどのような姿になってほしいかという視点で実態を整理します。その際、子ども自身の夢や希望、学校の教育目標や目指す児童生徒像なども踏まえることで、より具体的に子どもの姿を想像することができます。

指導すべき課題の整理（課題の抽出）

指導すべき課題の整理	③ ①をもとに②-1, ②-2, ②-3で整理した情報から課題を抽出する段階
	④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階
	⑤ ④に基づき課題同士を整理する
	⑥ ⑤を達成するために必要な項目の整理

一つ一つの課題を「できること」「もう少しでできること」「支援や配慮でできること」「できないこと」に分けていきます。

できること	もう少しでできること	支援や配慮でできること	できないこと
<ul style="list-style-type: none"> 音楽が好きで曲に合わせて体を動かして楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> 形や色の弁別が、まだできていない 	<ul style="list-style-type: none"> 椅子に座るときに姿勢がくずれ 	<ul style="list-style-type: none"> 興奮しているときは寝つきが悪い
<ul style="list-style-type: none"> きらきら光る物に興味を示しじっと見ている 	<ul style="list-style-type: none"> 走る、跳が、投げるなどの動きはできるが、ぎこちない 	<ul style="list-style-type: none"> 絵カードやタイムタイマーなどの提示はまだ有効でない 	<ul style="list-style-type: none"> 着席して机上学習に取り組むことが難しい
<ul style="list-style-type: none"> 着替え、歯磨き、手洗いは、おおむね自分でできる 		<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを言葉で伝えることが難しい 	<ul style="list-style-type: none"> 気になる物に目がいき、話をしている相手と目が合わない
<ul style="list-style-type: none"> アンパンマンのキャラクターが好き（持ち物等） 			

- ① 「できること」「もう少しでできること」「支援や配慮でできること」「できないこと」
 - ② 「できるようになってきたこと」「日常に汎化していく段階にあること」
 - ③ 「これまで指導してきたがあまり変容がみられていないこと」
- 以上の3つの視点をもとに実態を整理します。
- ⇒③に関しては、課題の抽出からはずしますが、できることや得意なこと、好きなことなどは、児童生徒の指導内容や方法を検討する際の重要な要素となるため、実態として確認しておくことが大切です。

指導すべき課題の整理（課題同士の関連）

指導すべき課題の整理

③ ①をもとに②-1, ②-2, ②-3で整理した情報から課題を抽出する段階

④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階

「原因と結果の関係」を →
 「関連しあう関係」を ↔

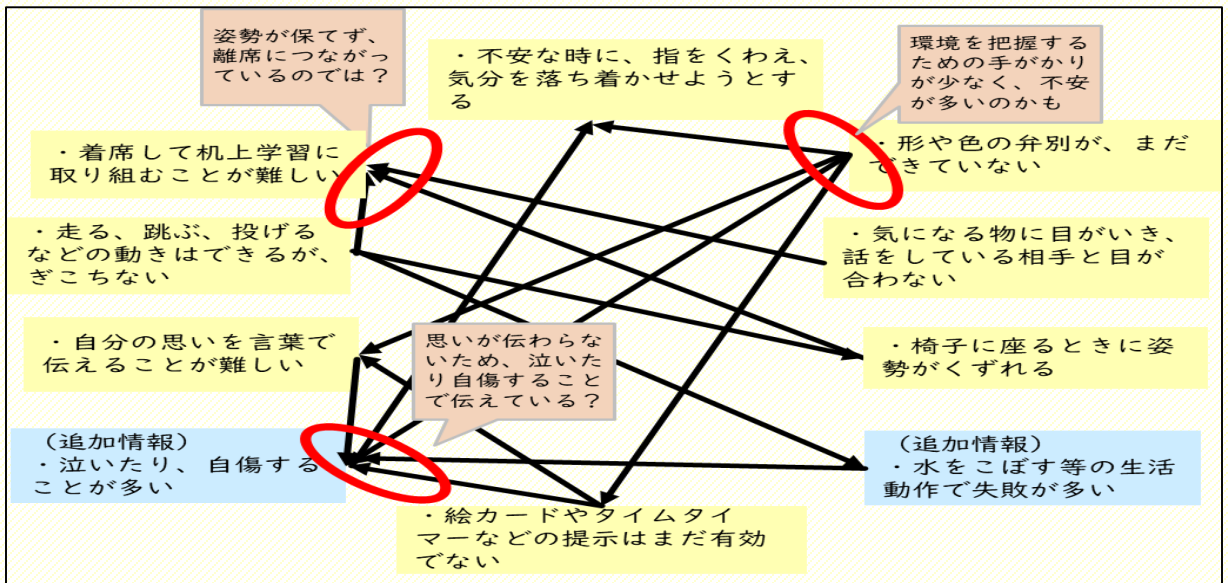
他の課題と多く結びついているものが、複数の課題の要因になっていると思われます。

これが解決すれば、複数の課題が解決できるのではと予測を立てます。

またなぜそのように考えたのかという指導の仮説をたてます。

※根拠を吹き出してメモしておきましょう。

この作業は自立活動の目標設定の根拠になります。複数の教師で行うことで、多角的な視点で捉えることができる。



実態把握②-3（3年後・卒業後の姿）を目指し、課題同士がどのように関連しているのか、その関連から見える中心的な課題を見つけ、その中心的な課題の解決に向けた指導目標・指導内容の設定につなげます。

指導目標の設定

指導すべき課題の整理

③	①をもとに②-1, ②-2, ②-3で整理した情報から課題を抽出する段階
④	③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階

⑤ ④に基づき設定した指導目標（ねらい）を記す段階

課題同士の関係を整理する中で今指導すべき指導目標として	
-----------------------------	--

⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階

指導目標（ねらい）を達成するために必要な項目の選定

中心課題で立てた仮説をもとに、指導目標を設定します。計画を立てた教師以外でも評価ができる目標（文章）になっているかがポイント。

項目間の関連付け

⑧ 具体的な指導内容を設定する段階

選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定	ア	イ	ウ	...
-------------------------	---	---	---	-----

図2 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例（流れ図）

指導目標間の関連付け

指

〈〇〇のために〉 〈〇〇ができるために〉 〈〇〇することが必要なので〉 〈〇〇の力を向上させるために〉 などの言葉を使って、考えると捉えやすくなります。

書き方の例としては 〈対象物に注目し集中して活動にとりくむために〉（心-1, 2）と（環-4, 5）を関連付けて設置したのが⑧-アのように、⑧の具体的な指導内容の根拠を記載。

指導目標（ねらい）を達成するために必要な項目の選定		安定	形成		ゲーシオン
---------------------------	--	----	----	--	-------

項目間の関連付け

⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント

⑧ 具体的な指導内容を設定する段階

選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定	ア	イ	ウ	...
-------------------------	---	---	---	-----

図2 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例（流れ図）

具体的な指導内容

指導すべき

③ ①をもとに②-1, ②-2, ②-3で整理した情報から課題を抽出する段階

具体的な指導内容には、いつ、だれが、何をどのような指導を行い、どのような姿をめざすのかを記載します。

例えば、「かかわり遊び」などのように、学習活動のみを記載するのではなく、自立活動で、かかわり遊び（学習活動）で何をねらうのか、どのような姿が見られたらOKなのか（評価基準）まで記載すると、指導が明確になり客観的な評価もできます。

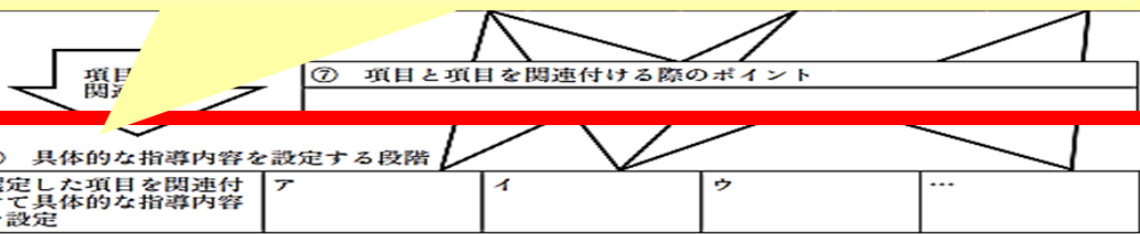


図2 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例（流れ図）

<p>1 健康の保持</p> <p>(1)生活リズムや生活習慣の形成 (2)病気の状態の理解と生活管理 (3)身体各部の状態の理解と養護 (4)障害の特性の理解と生活環境の調整 (5)健康状態の維持・改善</p>	<p>1. やりとりの反応が弱い 2. 手指が不器用 3. 注視、目と手の協応がうまくいっていない</p>
<p>3- (1) 他者とのかかわりの基礎</p> <p>(2)他者の意図や感情の理解 (3)自己の理解と行動の調整 (4)集団への参加の基礎</p>	<p>4 環境の把握</p> <p>(1)保有する感覚の活用 (2)感覚や認知の特性についての理解と対応 (3)感覚の補助及び代行手段の活用 (4)感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握</p> <p>4- (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の掲形成に関すること</p>
<p>5 身体の動き</p> <p>(1)姿勢と運動・動作の基本的技能 (2)姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 (3)日常生活に必要な基本動作</p> <p>5- (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行</p>	<p>(1)コ (2)言 (3)言 (4)コ</p>

玉入れ課題を通して、この3つの内容に関する指導を行う。

主体的・対話的で深い学び

主体的・対話的で深い学びを意識した活動の設定！

「子どもが自ら学ぶこと」 **(主体的な学び)**

「やりとりを大切にすること」 **(対話的な学び)**

「子どもの学んだ知識・技能を使って考え、
次の学習につなげていく」 **(深い学び)**

- ・子どもの興味関心や得意なこと、よさを生かした取り組み内容や教材・教具の準備がポイント！
- ・子どもを傷つけない大人の意識・態度

自立活動の指導形態（留意点）

指導に当たっては、個別に指導目標や具体的な指導内容を定めた、個別の指導計画を作成します。

学習指導要領解説自立活動編では、「個別の指導計画に基づく指導は、個別指導の形態で行われることが多いが、指導目標を達成する上で効果的である場合には、児童生徒の集団を構成して指導することも考えられる。しかし、自立活動の指導計画は個別に作成されることが基本であり、最初から集団で指導することを前提とするものではない点に留意することが重要である。」と示されています。

学習指導要領解説自立活動編 参照

自立活動の評価

「知的障害特別支援学校の自立活動の指導」参照

【自立活動の指導における評価の工夫】

- ・ 設定した指導目標や内容の妥当性を吟味すること。
- ・ 観察可能な具体性のある目標や内容であること。

【目標と評価の例 ①】

(指導目標)

大人に対して自発的な意思の表出を増やす。

(評価)

遊びの場面で、もう一度やってほしいという要求が頻繁に見られるようになった。

例1の評価においては、いつどのような場面で現れるかわからない行動を評価材料としているため、記憶に頼った評価となり、曖昧になりがち。教師の主観や印象に頼った評価は、系統的・継続的な指導につながらず、その年度の指導で終始してしまう可能性があります。

【目標と評価の例 ②】

(指導目標)

自由な遊びの場面で、担任の教師に、発声や態度で好きな遊びの要求を行う。また、遊びの中で発声や表情による感情の表出をする。

(評価)

毎朝の自由遊びで、担任に近づき両腕を上げ、抱っこでぐるぐる回す遊びを求めようになった。この遊びでは、笑顔と発声が見られ、しだいに声が大きくなってきた。

例2の評価では、場面、人、遊びの種類などが限定された中で具体的に目標を設定しているため、表出を捉える記録の場や観点が明確です。また、場面が限定されていれば、映像として記録し、引き継ぎの資料とすることもでき、系統的・継続的な指導にもつながります。

記入例
(流れ図、個別の指導計画と評価)

個別の指導計画作成の流れ図：例①

学部・学年	小学部1年生
障害の種類・程度や状態等	知的障害 言葉による意思疎通は困難
事例の概要	・コミュニケーション手段を獲得し、他者へ自分の思いを伝えることができるようになることで、安心して学校生活を過ごす

①障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集

- ・着替え、手洗い、歯磨きは、おおむね自分でできるが、支援が必要などところもある
 - ・音楽が好きで曲に合わせて体を動かして楽しむ
 - ・アンパンマンのキャラクターが好き(カバンなど、持ち物にもアンパンマンの絵が入ったものを喜ぶ)
- ⇒興味関心が狭く、なかなか広がらない
- ・きらきら光るものに興味を示し、じっと見ていることがある
 - ・着席して机上学習に取り組むこと(5分程度)が難しい
- ⇒途中離席など、落ち着きがなくなる
- ・走る、跳ぶ、投げるなどの動きはできるがぎこちない(コップの水をこぼす、ハサミがうまく使えない)
 - ・気になるものに目がいき、話をしている相手と目が合わない(一瞬合うことはある)
 - ・自分の思いを言葉で伝えることが難しい(伝わらないと泣く、自分で自分の頭をたたくなどの行動がある)
 - ・不安な時に、指をくわえ、気分を落ち着かせようとする

②-1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階

健康の保持 (健)	心理的な安定 (心)	人間関係の 形成(人)	環境の把握 (環)	身体の動き (身)	コミュニ ケーション(コ)
・興奮して いる時は、寝 つきが悪い	・不安なときに、 指をくわえ、気 分を落ち着か せようとする ・着席して机上 学習に取り組む ことが難しい (離席など)	・気になるも のに目がい き、話をして いる相手と 目が合わな い	・形や色の弁別はま だできていない ・絵カードやタイムタ イマーによる視覚的 な情報の提示はま だ有効でない ・きらきら光るものに 興味を示し、じっと 見ていることがある	・椅子に座る ときに姿勢が くずれる ・走る、飛ぶ、 投げるなどの 動作はできる がぎこちない	・自分の思いを 言葉で伝える ことが難しい

②-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階

- ・着席して机上学習に取り組むことが難しく、途中で離席するなど落ち着きがなくなる
- ・体の使い方のぎこちなさや力の加減がうまくいかず、コップの水をこぼす、ハサミやのり等をうまく使えない等の困難が見られる
- ・自分の思いを言葉で伝えることが難しく、泣き出したり、頭をたたいたりする等の行動につながっている
- ・絵カードを活用して意思交換の手段にしたいが、絵カードの意味やカードで伝えるという行為そのものの理解ができていない

②-3 収集した情報(①)を3年後の姿の観点から整理する段階

- ・安定した気持ちで、学校生活を送る
- ・泣いたり、自傷したりせず、自分の気持ちを先生や友達に伝えることができるようになること
- ・日常生活動作が向上し、様々な活動をスムーズに行えるようになること
- ・45分間、離席せず、机上学習に取り組めるようになること

個別の指導計画作成の流れ図：例①

指導すべき課題の整理

③ ①をもとに②-1,②-2,②-3で整理した情報から課題を抽出する段階

- ・自分の思いを伝えることができず、泣いたり、自傷したりするなどの行動が見られる
- ・力の加減が難しいことや体の使い方がぎこちないため、日常生活動作において、失敗することが多い
- ・5分程度の短い時間でも、机上での学習に取り組むことが難しい。

④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階

- ・日常生活の中で、力の加減や体の使い方がぎこちない
⇒ 色々な場面で失敗経験を積み重ねてしまっている
- ・対象物を見ることや集中して活動に取り組むことが難しい
⇒ 興味が広がりにくいことや、机上の学習に取り組めないことにつながっている
- ・自分の思いを伝えることが難しい
⇒ 泣く、その場から逃げる、自傷などの行動につながっている

⑤ ④に基づき設定した指導目標(ねらい)を記す段階

課題同士の関係を整理する中で今指導すべき指導目標として	・日常生活に必要な動作の向上や、コミュニケーション手段を獲得し、他者へ自分の思いを伝えることができるようになることで泣いたり自傷したりする行動の軽減を図る
-----------------------------	---

⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階

指導目標(ねらい)を達成するために必要な項目の選定	健康の保持(健)	心理的な安定(心)	人間関係の形成(人)	環境の把握(環)	身体の動き(身)	コミュニケーション(コ)
		(1)情緒の安定に関すること (2)状況の理解と変化への対応に関すること	(3)自己の理解と行動の調整に関すること	(4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること (5)認知や行動の手がかりとなる概念の形成に関すること	(3)日常生活に必要な基本動作に関すること	(1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること (4)コミュニケーションに関すること

項目間の関連づけ

⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント

- 〈日常生活に必要な動作の向上のために〉環(4)、身(3)を関連付けて設定…ア
- 〈対象物に注目し集中して活動に取り組むために〉心(1)(2)、環(4)(5)を関連付けて…イ
- 〈コミュニケーション手段の獲得のために〉心(1)(2)、人(3)、コ(1)(2)を関連づけて…ウ

⑧ 具体的な指導内容を設定する段階

選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定	ア ダイナミックに体を動かす遊び	イ 対象物に注意を向けて取り組む活動	ウ 簡単な身振りや発声、絵カードの提示などを活用し自分の思いを伝える活動
-------------------------	---------------------	-----------------------	---

個別の指導計画作成の流れ図：例①

⑨ 授業計画の作成 (いつ・誰が・どのように指導するのかを計画)

いつ?	自立活動	遊びの指導・体育	左以外の時間
誰が どのように?	<ul style="list-style-type: none"> ・担当が自立活動の時間 (自立活動の担当者) ・スキンシップ遊び ・追いかけて遊ぶ ・絵本の読み聞かせ だるまさんシリーズ おひさまあはは、など ・教具を使って対象物に注目する、手指を使い物を操作する活動 ちぎり→はさみで切る ・ままごと包丁 ・マッチングの学習 物のマッチング ・身近な物分類 ・(歯ブラシ、スプーン、積み木など) ・お買い物ごっこ ・食べ物のみミニチュア ・ペアマッチング ・絵のマッチング ・ピクチャーパズル ・カード分類、 ・3X3マッチング、 ・絵合わせマッチング ・絵カードを使ったコミュニケーション コミュニケーションボード ・すきなものどっち(要求選択) ・どっちがほしい ・サーキット(指さし) ・順番ゲーム・ごっこ遊び ・絵合わせマッチング ・好きなことを知らせよう ・選んで遊ぼう ・発声の基礎に関する取り組み音声模倣・しゃぼんだま・笛・風車・口形模倣・鏡遊び・パ・タ・カラ、あえいうおべー 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具を使った遊び ・どっちで遊ぶ? ・サーキット遊び(指さし、身体の動き) ・粗大運動遊び ・音楽に合わせて、教師の動きを模倣し、ダンスする ・動物まねっこ ・できるかな?体操 ・ぼんくんの友達 ・くいしんぼうのごりら ・発音できる語、できそうな語を中心に、曲に合わせて歌う ・歌付き絵本 ・おーいかばく ・だれでしょう、のせてのせて 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動で学習した絵カードを各場面でも活用し、定着を図る ・スケジュール ・個別の予定 ・コミュニケーションボード ・本児が好きなキャラクターを活用し、本人の持ち物や行動の手がかりとして活用する ・興味を示したものや事柄を記録し、本児と関わりのある職員や保護者と共有し、学習活動にも取り入れる
指導上の留意点 (共通確認)	<p>【指導に当たって】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習場面でのプロンプト(いつか消える支援)も記入する ・言語的プロンプト 例:パズルをはめる際の順番 例:発表の場面で1、…2、… ・視覚的プロンプト 点線、薄い実践、身体的プロンプト、鉛筆などの手添え→後ろからガイドする 		

個別の指導計画作成の流れ図：例②

学部・学年	中学2年生(通常学級在籍)
障害の種類・程度や状態等	アスペルガー症候群
事例の概要	友達や先輩とのトラブル

① 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよき、課題等について 情報収集

- ・小学生の時に、アスペルガー症候群の診断を受けたが、本人への告知はしていない。今後、機会をみて伝えた方がよいのか、母親も悩んでいるが、教師のタイミングで他生徒への説明等は行ってもよいとのこと。
- ・まじめな性格で、清掃や授業の準備や遅刻は、言われずとも取り組むことができる一方、他の生徒の遅刻や不真面目な態度が許せず、注意しトラブルに発展することがある。
- ・思ったことや感じたことをすぐ口にするため、同級生のみならず先輩等とのトラブルが絶えない。
- ・感覚過敏があり、触れられことや、騒がしい場所は苦手。
- ・時々、授業中に飛び出し、保健室に行くことがある。
- ・友達はいらない、面倒くさいという発言がよくある。
- ・生き物についての知識が豊富で、生き物の話をしているときは、とても生き生きしている。

②-1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階

健康の保持 (健)	心理的な安定 (心)	人間関係の形成 (人)	環境の把握 (環)	身体の動き (身)	コミュニケーション (コ)
・健康面は良好だが、自分自身の障害に対する理解については、まだはっきりとは理解していない。最近では、通院中の病院の待合室にある障害に関する書籍に目を通すことがあるとのこと。	・トラブルがあった時は、気持ちの切り替えに時間がかかる。また、相手が自分を怒らせるという被害者意識がある。 ・嫌な時には、教室から出ていき、保健室で休むことがある。	・本音と建て前のようなあいまいな感覚を理解することが難しく、思ったことをすぐに言うてしまうことでトラブルがある。 ・友達はいらない、面倒くさいという発言があるが、教師への関りはよくある。	・学習については特に遅れはない。 ・感覚過敏があり、触れられることや、騒がしい場所は苦手。 ・順序だてて話すと、理解しやすい。	・運動に関しては、少しぎこちなさはあるが、日常生活や体育の授業等で支障が出るほどではない。	・言葉でのやりとりに関しては特に問題はないが、相手の意図を察することがむずかしかったり、自分の興味・関心の強いことに関する話では、少々一方的になることがある。

②-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階

- ・友達や先輩とのトラブルが多い。
- ・感覚過敏があり騒がしい場所や友達に触れられると、気持ちが不安定になる。
- ・気持ちの切り替えに時間を要する。

②-3 収集した情報(①)を〇〇年後の姿の観点から整理する段階

- ・トラブルを回避し、良好な人間関係を築き、安心して学校生活を送ってほしい。(高校進学後も)
- ・気持ちの切り替え方を知り、自分自身で気持ちを切り替えるための行動ができるようになってほしい。

個別の指導計画作成の流れ図：例②

指導すべき課題の整理

③ ①をもとに②-1, ②-2, ②-3で整理した情報から課題を抽出する段階

- ・トラブルの際の対処法を知る。
- ・トラブルの原因について、自分の言動も併せて考える。
- ・ストレスの解消、気持ちの切り替えができるようになる。
- ・嫌なことやつらいことは、周りに伝える。(先生や友達)

④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階

友達をいらないとは言いが、集団から離れていくことはせず、周りの話を聞いて一人で笑ったり、本人なりにつつこみを入れることがあり、それが原因でトラブルに発展していることが多い。また、トラブルで気持ちの切り替えがうまくいかなかったり、授業中の騒々しさに気持ちが不安定になることもあり、教室を飛び出し、養護教諭とおしゃべりをしに保健室に行くこともある。本人自身は人が好きで、関わりたい気持ちはあるが、どうやって仲良くすればいいのかわからず、寂しい思いをしているのではないかと考える。

まず、トラブルの際には担任や養護教諭、また本人が信頼できる先生などに話を聞いてもらい、つらかった気持ちを受け入れ、信頼関係を築くこと、気持ちが不安定になったときには、教科担任等に伝え、気持ちの切り替えのための時間をもらい、その場を離れること等の約束を通して、情緒の安定や適切な行動に繋げる。

⑤ ④に基づき設定した指導目標(ねらい)を記す段階

課題同士の関係を整理する中で今指導すべき指導目標として

トラブルの解消や気持ちの切り替えができるようになり、安心して学校生活を送る。

⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階

指導目標(ねらい)を達成するために必要な項目の選定	健康の保持(健)	心理的な安定(心)	人間関係の形成(人)	環境の把握(環)	身体の動き(身)	コミュニケーション(コ)
	(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること。	(1) 情緒の安定に関すること。 (2) 状況の理解と変化への対応に関すること。	(1) 他者とのかわりの基礎に関すること。 (2) 他者の意図や感情の理解に関すること。 (3) 自己の理解と行動の調整に関すること。	(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。		(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること。

項目間の関連づけ

⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント

- 〈人との信頼関係を築くこと〉 心(1)(2)、人(1)(2)を関連付けて設定…ア
- 〈良好なコミュニケーション〉 心(2)、人(1)(2)(3)、環(5)、コ(5)…イ
- 〈自己理解・他者理解〉 健(4)、心(1)、人(1)(2)(3)、環(5)、コ(5)…ウ
- 〈気持ちの切り替え〉 健(4)、心(1)(2)、人(3)、環(5)、コ(5)…エ

⑧ 具体的な指導内容を設定する段階

選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定	ア できごとや自分の気持ちを落ちついて伝えることができるようになる。	イ 自分の言動を振り返り、どうすれば良かったかを考えることができるようになる。	ウ 相手の言動の後ろにある気持ちを知ること、自分が感じていたこととの違いに気づく。	エ つらい気持ちなどを周りに伝え、気持ちの切り替えのために、先生に伝えてからその場を離れる。
-------------------------	------------------------------------	---	---	--

個別の指導計画作成の流れ図：例②

⑨ 授業計画の作成（いつ・誰が・どのように指導するのかを計画）

いつ？	各教科等の時間	生徒同士のトラブル時	保健室に来室時	お昼の休憩時間
誰が どのよう に？	<p>・つらい気持ち等を先生に伝えてから、保健室に行く。 ⇒ きもちの温度計（ツール）を用いて、気持ちを見える化し、先生に伝える。</p> <p>・できそうであれば、クールダウンに必要な時間も確認する。</p> <p>※各教科等の担当教師で共通確認をする。</p> <p>1. 本人の訴えがあったときには、どこに行くのか、何時に戻ってくるかの確認をすること。</p> <p>2. 「だめ」と言って我慢させたり、〇〇時までに戻ってくるようにとこちらで決めず、必ず本人に決めさせること。</p>	<p>・本人から訴えがあった時には、トラブルの相手と本人の話を時系列で整理しながら聞き、状況やその時のお互いの気持ちを共有できるような介入を行う。</p> <p>※全職員で共通確認する。</p> <p>1. 本人の訴えがあったときには、相手と本人の話に介入するが、どちらの話も否定せず、事実のみを確認する。</p> <p>2. 「握手で仲直り」のような解決はせず、確認だけに留め、あとは生徒が考える。</p> <p>3. トラブルの相手生徒が理解できそうであれば、障害という言葉ではなく、相手の気持ちを理解することに時間がかかる生徒なので、協力してほしいことを伝え、今後トラブルがあったときには、間に入って話してくれるよう伝える。（協力者になってもらう。）</p>	<p>・養護教諭に話しを聞いてもらい、気持ちの切り替えを促してもらう。</p> <p>・切り替えの時間が短かった時には、今日は〇分で切り替えられたねと褒める。</p> <p>※全職員で共通確認する。</p> <p>1. 保健室でおしゃべりしていたことについては、責めない。</p> <p>2. 保健室から戻ってきたら、「おかえり。待ってたよ」「ここやてるよ」と、必要最小減の声かけにする。</p>	<p>・理科の先生と生き物についておしゃべりを楽しむ。</p> <p>・「今、時間ありますか？」と聞いてからおしゃべりすることや、時間がなくておしゃべりができないことがある時には何をするかを本人と決めておく（担任）</p> <p>・時間を決めて、おしゃべりに付き合ってください。（理科担当）</p> <p>→はじめに、〇時までならいいよと伝えて、時間を意識させる。</p> <p>生き物の話しをしながら、他の興味があるものがわかれば、担任までお願いします。→おしゃべりのレパトリーを広げたい</p>

個別の指導計画と評価（作成要領）

個別の指導計画記入の観点の概要（その3 自立活動版） ※別紙（流れ図）に基づいて作成

個別の教育支援計画の短期目標(1年間)

- (1)他の教科と異なり3観点では記入しない。
- (2)下記①～④の手順で課題を整理する中で、**今指導すべき指導目標を300字以内**で記入する。
 - ①障害の状態，発達や経験の程度，興味・関心，学習や生活の中で見られる長所やよき，課題等について情報収集
 - ②-1 ①を自立活動の区分に即して整理
 - ②-2 ①を学習上または生活上の困難，これまでの学習状況の視点から整理
 - ②-3 ①を**3年後の姿の観点から整理**
 - ③ ①を基に②1～3で整理した情報から課題を抽出
 - ④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し，**中心課題**を導き出す。
 ※1:流れ図⑥「4」に基づき指導目標(ねらい)が個別の年間目標となる。
 ※2:中心課題に応じた指導目標を設定する。※3:自立活動の年間目標は3年後の姿を見据えた、今指導すべき年間目標となる。

個別の年間目標300字以内

目標250字以内	<ol style="list-style-type: none"> (1)年間の指導目標からポイント(各学期の目標)を導き出す (2)導き出したポイント(各学期の目標)が自立活動6区分27項目のどの項目と関連しているかを250字以内で記入する。 (3)導き出したポイント(各学期の目標)と各学期の具体的な指導内容の関連を記入する。 ※:流れ図⑦「項目と項目を関連付ける際のポイント」が学期目標となる。
活動内容250字以内	<ol style="list-style-type: none"> (1)具体的な指導内容を設定する。 (2)各学期の目標と関連付けられた指導内容とする。 ※:流れ図⑧「具体的な指導内容を設定する段階」が指導内容となる。
てだて400字以内	<ol style="list-style-type: none"> (1)いつ、だれが、どのように指導するのかを記入する。 (2)【自立活動の時間における指導】のてだてを記入する。 (3)【各教科等の指導の参考になる活動・配慮・てだて】 自立活動の指導は、自立活動の時間における指導と各教科等における指導とが密接な関連を保つことが必要であることから字数の範囲内で記載する。 ※教科別の指導においては、教科の目標を達成するための時間であるため、自立活動としての指導目標を設定して指導を行うのではなく、自立活動の時間における指導を参考にした配慮やてだてを行うことや、自立活動の指導と関連を図って指導することに留意すること。
学期評価 年間評価550字以内	<ol style="list-style-type: none"> (1)1学期、2学期の評価 <ol style="list-style-type: none"> ① 通知表に目標、内容、評価が記される場合 学期当初にたてた目標についての実現状況(児童生徒個々の評価規準に基づいて、どのように達成でき、どのような力が身につき、次の課題が何か等)を記載。 ② 通知表に評価のみを記載する場合 目標、具体的に定めた指導内容(内容、てだて)、実現状況(児童生徒個々の評価規準に基づいて、どのように達成でき、どのような力が身につき、次の課題が何か等)を記載。 ③ 年間評価 目標、具体的に定めた指導内容(内容、てだて)、実現状況(児童生徒個々の評価規準に基づいて、どのように達成でき、どのような力が身につき、次の課題が何か等)を記載。3学期の目標、内容も踏まえて年間評価を行う。
引継事項200字以内	<p>引き継ぐべきことを記載する。(担当者が変わっても、継続した指導につなげるために必要な内容など)</p>

個別の指導計画と評価（記入例）

個別の指導計画 「小学部 知的障害教育課程 自立活動」 ※細案は別紙（流れ図）参照

個別の年間目標 300字以内	・日常生活に必要な動作の向上と、コミュニケーション手段を獲得し、他者へ自分の思いを伝えることができるようになることで、泣いたり自傷したりする行動の軽減を図る。(79文字)
-------------------	---

【自立活動の内容項目の関連】	<p>〈日常生活に必要な動作の向上のために〉環(4),身(3)を関連付けて設定…内容ア</p> <p>〈対象物に注目し集中して活動に取り組むために〉心(1)(2),環(4)(5)を関連付けて設定…内容イ</p> <p>〈コミュニケーション手段の獲得のために〉心(1)(2),人(3),コ(1)(2)を関連づけて設定…内容ウ</p>
----------------	---

	1学期	2学期	3学期の目標内容でだて及び年間評価
目標250字以内	・日常生活に必要な動作の向上を目指す。 ・対象物に注目し、集中して活動に取り組む。 ・コミュニケーション手段を獲得する。(49文字)	・日常生活に必要な動作の向上を目指す。 ・対象物に注目し、集中して活動に取り組む。 ・コミュニケーション手段を獲得する。(49文字)	・日常生活に必要な動作の向上を目指す。 ・対象物に注目し、集中して活動に取り組む。 ・コミュニケーション手段を獲得する。(49文字)
内容250字以内	ア:ダイナミックに体を動かす遊び イ:対象物に注意を向けて取り組む活動 ウ:簡単な身振りや発声、絵カードの提示などを活用し自分の思いを伝える活動(70文字)	ア:ダイナミックに体を動かす遊び イ:対象物に注意を向けて取り組む活動 ウ:簡単な身振りや発声、絵カードの提示などを活用し自分の思いを伝える活動(70文字)	ア:ダイナミックに体を動かす遊び イ:対象物に注意を向けて取り組む活動 ウ:簡単な身振りや発声、絵カードの提示などを活用し自分の思いを伝える活動(70文字)
だて 400字以内	<p>【自立活動の時間における指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スキンシップ遊び ・手指を使った動作(ハンマートイ、引っぱる、落として入れる等)に取り組む ・しゃぼん玉、笛などを使い、発声の基礎に取り組む ・PECSを使ったやりとり(フェイズ1:交換動作の習得、フェイズ2:距離を広げる) <p>【他教科・遊びの指導など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲に合わせてタンバリンを叩く(音楽) ・追いかけっこ遊び(体育) ・プール遊び(体育) ・ちぎる、貼る(図工) ・遊具(ブランコ、トランポリン等)を使った遊び(遊びの指導) <p>※本人が好きならきら光る素材や使った教材教具の工夫 ※好きなキャラクターを活用し、興味を持たせる工夫(264文字)</p>	<p>【自立活動の時間における指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模倣遊び(音楽に合わせてダンス) ・手指を使った動作(ペグ差し、積み木を積む等)に取り組む ・しゃぼん玉、笛などを使い、発声の基礎に取り組む ・PECSを使ったやりとり(フェイズ2:距離を広げる、フェイズ3:絵カードの弁別) <p>【他教科・遊びの指導など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲に合わせて太鼓を叩く(音楽) ・サーキット、かけっこ(体育) ・クレヨンで描く(図工・国語) ・遊具を使った遊び:選んで遊ぶ(遊びの指導) <p>※本人が好きならきら光る素材や使った教材教具の工夫 ※好きなキャラクターを活用し、興味を持たせる工夫(263文字)</p>	<p>【自立活動の時間における指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模倣遊び(音楽に合わせてダンス) ・手指を使った動作(エジソンのお箸でつまむ)に取り組む ・パ・タ・カ・ラ、あえいうおべー等の発声に取り組む ・PECSを使ったやりとり(フェイズ2:距離を広げる、フェイズ3:絵カードの弁別) <p>【他教科・遊びの指導など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲に合わせて笛を吹く(音楽) ・サーキット、かけっこ(体育) ・はさみで切る(図工) ・遊具を使った遊び:選んで遊ぶ(遊びの指導) <p>※本人が好きならきら光る素材や使った教材教具の工夫 ※好きなキャラクターを活用し、興味を持たせる工夫(248文字)</p>

個別の指導計画と評価（記入例）

<p>学期評価及び年間評価550字以内</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スキンシップ遊びやPECSでのやりとりに関する学習を通して、自分から先生の肩を叩いて呼ぶなど、人とのやりとりに緊張がなくなってきた。また、好きなお菓子の写真を渡すと好きなお菓子もらえる等、絵カードを使ったやりとりの意味を理解し、日常生活の中でも、好きなおもちゃの写真を用意しておくことで、欲しい時に先生に絵カードを渡すことができるようになってきている。 ・ハンマーでペグを打ち込む教具（ハンマートイ）での学習では、取り組み当初は肩を使って叩いていたのが、繰り返し取り組んだことで、腕や手首の動きが少しずつなめらかになってきている。 ・落として入れる学習では、教材教具として筒とキラキラ光るボールを使い対象物を見る（注目する）ことに取り組んだ。取り組み当初は対象物を見ずにボールを入れようとして、穴に入らないことも多かったが、対象物に注目するようになってきたことで、確実にボールを穴に入れることができるようになった。 ・体育や遊びの指導での体を使った活動に取り組んだことで、体を支える力がつき、座っての活動にも少しずつ取り組めるようになってきた。（465文字） 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に合わせて体を動かす活動で、両手をあげる、しゃがむ、ジャンプするなどの簡単な動きを入れたダンスの模倣ができるようになった。 ・積み木を積む作業では、積み木を落とさないよう、対象物を見て慎重に積み木を積む様子が見られた。 ・ペグ差しを使った学習では、3本のペグ差しに取り組み、当初は順番を意識せず、好きな箇所から入れていたが、左から右に順番に入れることができるようになった。 ・PECSでのやりとりに関する学習を通して、自分が欲しいものを選び、先生にカードを渡して、欲しいものをもらうことができるようになった。 ・遊具を使った遊びでは、1学期に取り組んだ遊びを絵カードで提示し、その中から好きな遊びを選択し、取り組むことができた。 ・笛を吹くことは上手にできるが、シャボン玉は息の調節のコツがつかめず、うまく膨らますことができなかった。継続して取り組みたい。 ・これまで手指を使った動きや対象物を見ることを目標に継続して取り組んできたことで、コップに水を注ぐ動作がスムーズになり、こぼさず注げるようになってきた。（448文字） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「日常生活に必要な動作の向上と、コミュニケーション手段を獲得し、他者へ自分の思いを伝えることができるようになることで泣いたり自傷したりする行動の軽減を図ること」を目標に、「ダイナミックに体を動かす遊び」「対象物に注意を向けて取り組む活動」「簡単な身振りや発声、絵カードの提示などを活用し自分の思いを伝える活動」を中心に取り組んできた。学習を通して、身体の軸の安定や手指の動きが向上した。また、対象物を見て物の操作することや、教師や友達の動きを見て模倣することができるようになってきている。コミュニケーションについては、絵カードの役割を理解し、カードを使って伝えることが増えている。 ・日常生活においても、コップに水をこぼさず注ぐことができるようになってきたこと、欲しい物のカードを先生に渡して伝えることができるようになってきたこと、教科の学習でも注目することができるようになったことで、着席しての学習も少しずつできるようになってきたことなど、自立活動の指導を通して生活や学習の基盤が整ってきている。（449文字）
<p>引継事項200字以内</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画に関しては、個別の指導計画（流れ図）を参照すること ・身体の軸の安定、手指の巧緻性については、今後も継続した指導が必要 ・できることが増え、ステップアップしたいところだが、新しい環境に緊張が強い子なので、年度初めは、これまでの取り組みを継続し、安心して新年度がスタートできるようにしてほしい。（148文字）

実践事例 (教材・教具の紹介)

教材名

作成者：島尻特別支援学校・小学部・落合ゆかり

「さかなつりをしよう」（自立活動）

【子どもの実態】 太田stage I-2, 3。目と手の協応動作が課題。

【指導目標】 対象物に磁石を近づけ、釣り上げることができる。

【教材教具の特徴】 一人でも友達とでも楽しめる。魚などを点数化して数の学習にもつなげられる。

【使い方・手順】

1、竿を選ぶ。



2、魚に竿先の磁石を近づけて釣り上げる。



3、容器に釣った魚を入れる。



教材名

作成者：那覇市立金城中学校・氏名 儀間明子

ボードに乗ってバランス上手

【子どもの実態】 体幹が弱い。乗り物のアトラクションが好き。

【指導目標】 体を大きく使って、体幹を鍛える。

【教材教具の特徴】 ローラーのついた板に乗り、体が倒れないようにバランスをとる。ペアを作って、ゲームを楽しむことで自然と体幹を鍛えることができる。

【使い方・手順】

1、ストレッチを十分に行い、ボードに体を乗せて、飛距離を測る。



2、途中まで友達がロープでひっぱり、手を離してからの飛距離を測る。



3、ペアになり、右手にピコピコハンマー、左手にロープをもち、敵のお尻を5回叩く。



県立総合教育センター特別支援教育班で実施した自主講座「自立活動」に参加して下さった先生方が実践で活用している教材教具です。

市販の教材を子どもの実態に合わせて活用している例や壊れたり汚れたりしても気にせず活用できるよう安い材料で自作して活用している例など、とても参考になります。

このほかにも多数の実践や教材教具がありますので、興味のある先生方は、下記のURL、QRコードからご覧ください。

URL：

QRコード

指導計画作成の流れ図 (様式例)

※ wordの様式もあります。

自立活動流れ図（様式例）

学部・学年	
障害の種類・程度や状態等	

① 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等についての情報収集

実態把握の視点	<input type="checkbox"/> 学習面（聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する等）
	<input type="checkbox"/> 運動面（粗大運動、微細運動等）
	<input type="checkbox"/> 社会性（コミュニケーション、人との関わり、自制、意思決定、自己理解等）
	<input type="checkbox"/> その他（興味関心、身辺自立、注意、多動性、衝動性、感覚の偏りなど）
興味・関心、よさ	
課 題	

②-1 収集した情報（①）を自立活動の6区分の視点で整理する段階
 ※①の実態を6区分で整理し、①で取りこぼした実態があれば、ここで追加してもかまいません。

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション

②-2 収集した情報（①）を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階

--

②-3 収集した情報（①）を〇〇年後の姿から整理する段階

--

③ ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階

④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階

課題同士の関係を整理する中で今指導すべき目標として	⑤ ④に基づき設定した指導目標を記す段階

指導目標を達成するために必要な項目の選定	⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階					
	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション

⑥ 項目と項目を関連付ける際のポイント

選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定	⑥ 具体的な指導内容を設定する段階			
	ア	イ	ウ	エ

⑨授業計画の作成

自立活動の時間	各教科等の指導（教育活動全体）	左以外の時間

この項目は参考例です。
児童生徒の実態に応じて
設定してください。

【ハンドブック作成】

島袋 美加	県立総合教育センター指導主事
朝倉 康介	県立総合教育センター研究主事
運天 尚美	県立はなさき支援学校教諭
落合ゆかり	県立島尻特別支援学校教諭
山口 飛	県立大平特別支援学校教諭

2022年4月 初版